

「 「 「 「
「 「 「
「 「
「

♪ジョイコン NEWS ♪

第29号 2018年4月1日

5周年を迎えることができることは正直思ってもいませんでした。発足当時のスタッフにとって、未知の世界で誰も自信がなかったのです。

ここまで継続できたのは、毎回満席になるほどのお客様にご来場頂いたこと、このメールマガジンの読者の皆様はじめ、多くの方々からのご支援があったからこそと、深く感謝しております。

5周年記念特別演奏会を迎えるいま、現状に満足することなく、その内容や運営をより一層充実させていきたいと思えます。

引き続き「ジョイコン」を宜しくお願い申し上げます。

それでは、「♪ジョイコン NEWS ♪」(第29号)をお届け致します。

【もくじ】

- 【1】次回コンサートのご案内
 - ◆第33回コンサート(5周年記念特別演奏会)
- 【2】今後の予定(先取り情報)
 - ◆第34回コンサート
 - ◆第35回コンサート
- 【3】究極の音楽形態“弦楽四重奏”
- 【4】コンサートのアンケートから

【1】次回コンサートのご案内

■■第33回コンサート(5周年記念特別演奏会)■■

◇2018年5月20日(日曜日)

①第1部:13:00開演(12:30受付開始)

②第2部:16:30開演(16:00受付開始)

※第1部、第2部とも同一プログラムの2回公演です

◇出演:大倉山カルテット(對馬哲男 Vn、倉富亮太 Vn、鈴木大樹 Va、佐古健一 Vc)

◇プログラム(予定)

◆モーツァルト:弦楽四重奏曲 第15番 二短調 K.421

◆ウェーベルン:弦楽四重奏のための緩徐楽章

◆チャイコフスキー:弦楽四重奏曲 第1番 二長調 Op.11

◇料金:大人・高校生2,000円、中学生以下1,000円

◇会場:大倉山記念館ホール

第33回ジョイフルコンサート(5周年記念特別演奏会)は

『大倉山カルテットが贈る 入魂のチャイコフスキー

～大倉山に集う俊英 弦楽四重奏の調べ』と題して、お届けします。

メッセージが届いています

大倉山ジョイフルコンサートにご来場いただきありがとうございます。

大倉山カルテットは今回で3回目の出演になります。

弦楽四重奏の本格派プログラムで活動してきました大倉山カルテットですが、

今回はメインにロマン派の最高潮チャイコフスキーを演奏いたします。

男4人の熱い演奏、チャイコフスキーの優美な旋律をお楽しみください。

(對馬哲男)

今回のジョイフルコンサートは5周年記念特別演奏会になります。多くの方に支えられ、5周年が迎えられる事を心から感謝いたします。コンサート準備の最初のスタッフミーティングは雨の降る寒い日でした。それがとても印象深く思い出されます。そしてジョイフルコンサートにとっても縁の深い大倉山カルテットが演奏して下さいます。彼らのキャッチコピーはいつもプロレスの様で笑ってしまうのですが、また渾身の熱のこもった演奏を聞かせて下さるとと思います。チャイコフスキーがメインということですので、彼のことを調べました。

○チャイコフスキー/弦楽四重奏曲 第1番 二長調 Op. 11

☆チャイコフスキー

チャイコフスキーは西欧的な伝統ロシア古典主義音楽を完成させた作曲家とされています。ただ両親とも職業的音楽とは無関係でした。母はピアノ、父はフルートが趣味で父は鉱山技師でした。音楽の才能は子供の頃から芽生えていたようですが、両親は音楽家にさせる意志は全くなく、10歳で法律学校の寄宿生として入学させます。卒業後法務省に入りますが、仕事にはあまり熱心ではなかったようです。知人からの紹介で帝政ロシア音楽協会のクラスに入学しました。それから音楽を本格的に学び、法務省を離れて、音楽に専念することになり、ニコライ・ルビンシュタインの口利きでモスクワ音楽院の音楽理論の教師となります。

しかし「ピアノ協奏曲第1番」の初演をチャイコフスキーから依頼されたニコライはこの曲に無反応で、書き直したら演奏すると言ったそうです。書き直しを拒否したチャイコフスキーはこの楽譜をハンス・フォン・ビューローに送り、ビューローの演奏は大成功でした。ニコライもその後考えを改め演奏するようになったそうです。このピアノ協奏曲は出だしがとても有名ですが、もともとチャイコフスキーは優雅なアルペジオで書き始めていたそうです。レコードがあるそうなのでいつか聴いてみたいですね。

以前チャイコフスキーを題材にした映画を観たことがあります。あまり金銭的には裕福ではないようでした。そこに大富豪の未亡人フォン・メック夫人が現れ、金銭的に援助を受けるようになります。その間2人は会うことはありませんでした。しかしその関係に嫉妬したチャイコフスキーの男性パートナーが自分達の間を暴露した手紙をメック夫人に送ったことで、金銭援助も打ち切られてしまいました。

数々の名曲を作っていますが、初演は不評のことが多いようです。

「白鳥の湖」も初演は踊り手、振付師、指揮者に恵まれず、失敗に終わりチャイコフスキーはショックのあまり再演を拒否したそうです。そしてなぜかインテリに侮られるなどエピソードは尽きません。それでもこれだけの様々な小曲～大曲までを作った偉大な作曲家であることは間違いのないと思います。

☆弦楽四重奏曲 第1番 二長調 Op. 11

4楽章からなり、30分ぐらいのとても大曲です。

特に、第2楽章の「アンダンテ・カンタービレ」は優美な旋律で有名で映画音楽やCMなどによく使われています。

前述のニコライ・ルビンシュタインが文豪トルストイのモスクワ訪問を歓迎して開催した特別音楽会でも演奏され、トルストイは感動のあまり涙を流したと言われていています。チャイコフスキーはその時のことを10年後の日記に「あの時ほど感動を持って作曲家としての誇りを抱いたことは私の生涯に2度とないだろう。」と記しているそうです。

短いようですが5年の間にもいろいろなことがありました。その間の出来事を振り返りながら演奏を聴きたいと思います。(A.N)

■予約申し込みはこちら

ホームページ：<http://www.okkurayama-joycon.com/>

予約専用電話：080-8424-5108

【2】今後の予定（先取り情報）～「予約申し込み」はまだ受付けておりません

■■第34回コンサート■■

◇2018年7月15日（日曜日）

◇出演：小山豊（津軽三味線）、斎藤純一（ギター）、他

※ジョイコン初の津軽三味線（小山流）とギターによる演奏会です。
どうぞご期待ください。

◆予約受付開始日：2018年5月21日（月曜日）

■■第35回コンサート■■

◇2018年9月16日（日曜日）

◇出演：山田磨依（ピアノ）

【3】究極の音楽形態“弦楽四重奏”

弦楽四重奏は2つのヴァイオリンとヴィオラとチェロという4つの弦楽器で構成されています。

最も初期の弦楽四重奏曲はイタリアのスカルラッティ（1660～1725）の書いた「2つのヴァイオリン、ヴィオレッタとチェロのためのソナタ」だと言われ、その後、他の作曲家たちもこのスタイルをまねて曲を作り始め、ハイドン、モーツァルト、ベートーヴェンと受け継がれていきました。

弦楽四重奏曲をハイドンは68曲（贋作の疑いのあるものを含めると83曲）、モーツァルトは26曲、ベートーヴェンは16曲作り、弦楽四重奏はクラシックの王道とみなされるようになり、後世の音楽家たちに大きな影響を与えました。ベートーヴェンの弦楽四重奏曲は彼の交響曲に匹敵するほど高い評価をされています。

弦楽四重奏は究極の音楽形態と言われています。オーケストラの規模を徐々に縮小していくと、最後に残るのが弦楽四重奏だということです。つまり、弦楽四重奏にはオーケストラのエッセンスのような表現力があり、無駄を省いた究極の姿なのです。

いろいろな楽器編成がある「室内楽」の中で、弦楽四重奏の曲が断トツに多いということなので、お薦めの作品や楽章を紹介したいと思います。どれも印象的なメロディです。

*ハイドン：弦楽四重奏曲第67番『ひばり』（耳なじみのよいこの曲は結婚式やイベントのBGMとしてよく使われています。）

*ハイドン：弦楽四重奏曲第77番『皇帝』（第2楽章は変奏曲ですが、主題がドイツ国歌のメロディになりました。）

*シューベルト：弦楽四重奏曲第14番『死と乙女』（もともとは「死と乙女」という歌曲のメロディだったものを弦楽四重奏第14番第2楽章の変奏曲の主題にも用いたので、この弦楽四重奏曲も『死と乙女』と呼ばれています。）

*チャイコフスキー：弦楽四重奏曲第1番『第2楽章アンダンテ・カンタービレ』

*ボロディン：弦楽四重奏曲第2番『第3楽章ノクターン』

*ドヴォルザーク：弦楽四重奏曲第12番『アメリカ』（ドヴォルザークが故郷チェコからアメリカにきて、ホームシックのまっただ中で書いたものです。「新世界」を書いたあと、わざわざアイオワ州のチェコの移民の多い村に行き、大好きなボヘミアの音楽、アメリカの民謡、黒人霊歌などからヒントをもらい2週間で書き上げたとのことです。）

*ベートーヴェン：弦楽四重奏曲第13番『第5楽章カヴァティーナ』（1977年に打ち上げられた宇宙探査機ヴォイジャーには、地球外知的生命体に地球人の存在を知らせることを目的とした音や画像が収められた「ゴールデンレコード」が搭載されているのですが、様々なジャンルの音楽と共にこの1曲も入っているのです。ヴォイジャーは今も宇宙空間を飛行中です。）

因みに、今回のジョイコンの弦楽四重奏のプログラムで、モーツァルトは二短調、チャイコフスキーは二長調ですが、二調はヴァイオリンが一番よく鳴る調だと言われています。おもしろいことにチャイコフスキー、ベートーヴェン、ブラームスのヴァイオリン協奏曲はどれも二長調です。（のん）

【4】コンサートのアンケートから

★前回のジョイフルコンサート（3月18日公演）：『Duo Concert～フルートとハープが運ぶ春』は如何でしたか？

アンケートの満足度では、「大変良かった」67%、「良かった」13%、残りは「無回答」の19%で、今回もとても好評でした。

自由記入欄（ご感想など）には、

『フルートとハープは本当に相性がいいデュオで音色がすてきでした』『とても楽しい演奏会でした。ハープを練ってみたいと若い時思っていたのですばらしかった！！若い時代がなつかしくうらやましい！！』『心地よい音達の演奏でした。よく知っている曲がプログラムに入っているのが嬉しかった』『ハープのツァーベル、はじめて聞く曲でしたが、とてもきれいな曲でひきこまれました』『カジルダ幻想曲最高でした』『春に相応しい Duo Concert でした。優しいフルートとハープの音色が寒さ厳しい冬から温かい春へと移り変わる様子を表現して下さったようで心からいやされました』など、好意的メッセージが数多く寄せられました。
一方、『武満さんの作品は難解でした』『可能でしたらハープのいろいろな弾き方、しくみが説明していただくと嬉しいのですが…』との書き込みもありました。

また、「座席のスペースが狭い」、「響き（エコー）がもう少し欲しい」との書き込みもありました。コンサート専用のホールではないため、ご不便や物足りなさもあるかと思えます。ご理解のほどお願いいたします。アンケート回収数：52（回収率68%）

【編集後記】

今年の桜前線の北上は、1週間から10日早くなっているそうです。横浜地方气象台は3月27日に横浜のソメイヨシノが満開になったと発表しましたが、これは平年より7日早く、昨年より10日早いのだそうです。

早い開花の要因の一つが冬場の寒さだといわれています。冬にしっかりと寒さにあたると「休眠打破」といって目覚めに向けたスイッチが入り易くなり、一旦暖かくなると花芽が急速に成長しやすい状況になるそうです。そういえば、今年の冬は平年より気温が低く、各地で観測史上最低気温を記録したというニュースがありましたね。
「さまさまのこと思ひ出す 桜かな」（松尾芭蕉）（お）

※このメールマガジンは、
大倉山ジョイフルコンサートのアンケート等で
「コンサート情報」を希望された方に配信しております。

■演奏会予約申し込み

次回予約申し込みはこちら
ホームページ：<http://www.ohkurayama-joycon.com/>
予約専用電話：080-8424-5108

■バックナンバー

メールマガジンのバックナンバー（PDFファイル）はこちら
ホームページ：<http://www.ohkurayama-joycon.com/>

■配信停止／アドレス変更

メールマガジンの登録、配信停止、アドレス変更はこちら
info@ohkurayama-joycon.com

発行：大倉山ジョイフルコンサート実行委員会

Eメール info@ohkurayama-joycon.com

携帯電話 080-8424-5108

URL <https://www.ohkurayama-joycon.com/>
